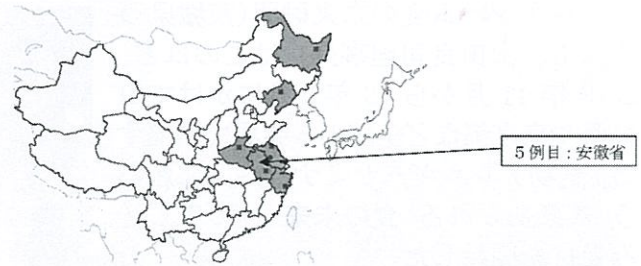


○ 中国で5例目のASF発生、安徽省の農場で30日現在80頭死亡—農水省

農水省によると、中国・農業農村部情報局は8月30日、安徽省(あんきしょう)蕪湖市(ぶこし)南陵県(なんりょうけん)の農場でアフリカ豚コレラ(以下ASF)が発生した、と発表した。中国でのASF発生は5例目となる。

中国政府の発表によると、29日同県の豚農場において原因不明の死亡豚を確認。同農場は459頭の豚を飼養しており、185頭でASFの症状が認められ、そのうち80頭が死亡した。30日には中国農業農村部、中国動物衛生・流行疾病センターにおける検査の結果ASFが確定した。疾病発生後、農業農村部は安徽省へ指導者を派遣。安徽省は緊急対策体制を築



5例目:安徽省

き、封鎖、殺処分、無害化处理、消毒など処置を行い、すでに発病した豚および同郡の豚合わせて379頭を殺処分した。また、無害化处理と同時に、豚や感染しやすい動物、製品の封鎖区域内への搬入、封鎖区域からの流出を禁止している。現在、発生に対する有効な措置が講じられている。

○ 10月1日付で物流統括部を新設—伊藤ハム米久ホールディングス

伊藤ハム米久ホールディングスは8月31日、10月1日付の機構改革と人事異動を発表した。

[機構改革]伊藤ハムから組織移管、米久から機能移管して物流統括部を新設する。

[人事異動]▽物流統括部長、執行役員グループ物流担当市川博久▽物流統括部副部長三島康弘。

○ Food TAIPEIに出展、「WAGYU SAMURAI」提案—ミート・コンパニオン

ミート・コンパニオン(本社:東京・立川市、阿部昌史社長)は6月27日から30日まで、台湾台北市内の台北貿易センターで開かれた「Food TAIPEI(台北国際食品展)」に出展し、海外輸出向け和牛ブランド「WAGYU SAMURAI」を現地外食企業や量販店に提案した。

同展示会は、台湾で最大規模の食品産業専門展示会で、国内外から1,700社・4,000小間が出展している。「WAGYU SAMURAI」は、特定の産地や農場に縛られず、全国の生産者とのネットワークを通じて海外ニーズに応じた和牛を各地から厳選した、オールジャパンプランド。全国の生産者が愛情とこだわりを持ち和牛づくりに全身全霊を尽くしている姿を日本の侍にたとえ、名前に込めている。

今回、ミート・コンパニオンでは日本食材ブース(JETRO主催)に小間を設け、すでに取引がある現地協力企業(インポーター)とともに出展、和牛のサーロイン14kgを展示したほか、「WAGYU SAMURAI」ののぼり、PR用ポスターも掲示。4日間にわたり、多くの来場者に日本産和牛の素晴らしさや外国産との差別化、生産におけるこだわりなど熱心に



アピールしていた。その甲斐もあり、同社によると、後日、現地日本料理店と新規の成約につながったほか、多数の現地企業と商談を設けることができたという。また、現地協力企業の顧客獲得に協力

することも重視し、協力企業が現地でより日本産和牛を販売し易くなるよう、現地の飲食店や量販店などを対象に和牛規格のヒアリングも行うなど営業サポートも行った。

ミート・コンパニオンによると、今後は台中、高雄など、台北市以外の地域での販売拡大や、加工品の輸出も取り組んでいきたい考えだ。また今回の現地協力企業は華僑との関係も深いことから、香港やマカオ、シンガポール、マレーシアなどへの輸出にも力を注いでいきたいとしている。